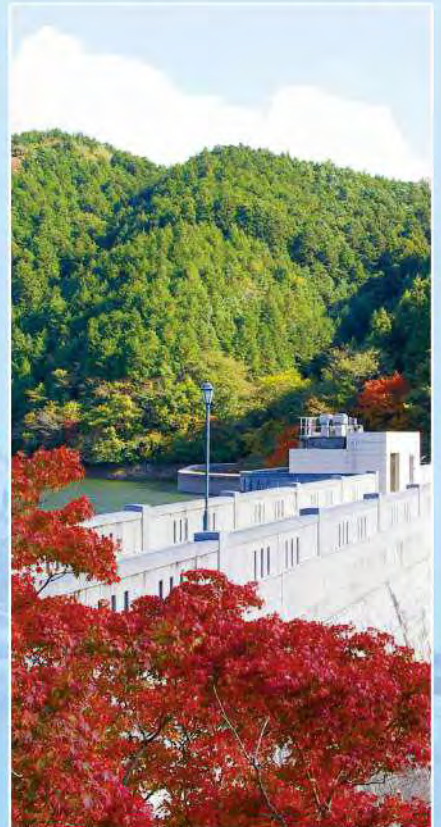


# 福岡市水道 100年のあゆみ

～ 持続可能な水道を 皆さまとともに ～



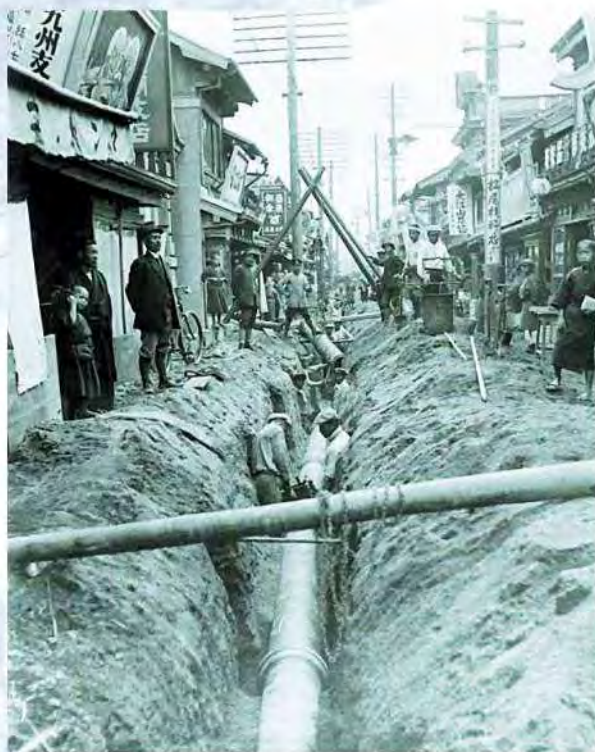


# 福岡市の水道が始まって100年、 これからの100年も安全で良質な水道水を…

大正12(1923)年に曲渕ダムや平尾浄水場(現・福岡市植物園)などの一連の施設が完成し、給水を開始した福岡市の水道事業は、令和5(2023)年3月1日に創設100周年を迎えます。

これからの100年も、市民の暮らしと都市の成長を支える安全で良質な水道水を供給し続けていきます。

未来へ、つなぐ。



昭和6(1931)年頃の配水管の布設工事  
(現在の博多区下川端町～網場町付近)

## 100周年記念ロゴマークとキャッチコピーについて

### ★キャッチコピー

「未来へ、つなぐ。」というキャッチコピーは、これまで数多くの困難を克服してきた先人たちの努力と、苦難を共に乗り越え一緒に歩んできた市民の皆さまや、水源地域・流域の方々に感謝し、これからも安全で良質な水道水を供給し続けていくという決意を示しています。

### ★ロゴマーク

100という文字は、「雨や川などの自然のめぐみの水」「そこから集まって暮らしの中を巡る水」「緑をはじめとする環境と共にある水」を色で表し、形を変えて巡り続ける水の循環と、未来に向けて持続可能な水道を構築する使命を胸に、水のバトンをつなぐ意思を表しています。

## CONTENT / 目次

- ・ごあいさつ 福岡市長 高島 宗一郎..... 2
- ・現在の水道事業..... 3
- ・100年のあゆみ..... 5
- ・水源地域・流域への「感謝」..... 11
- ・これからの100年に向けて..... 13



水道創設以前、博多の風物詩であった  
荷車で売り歩かれていた井戸の水





## ごあいさつ

福岡市長

高島 宗一郎

福岡市は、古くからアジアとの交流の中で発展してきた都市であり、現在、人口は160万人を超え、人口増加数・率ともに政令指定都市で1位、企業の立地や創業も進んでいます。また、水道や交通をはじめ商業・文化施設などの充実した都市機能に加え、歴史や文化の魅力、豊かな自然環境は、住みやすいまちとして国内外から高く評価をいただいています。

これまで都市の成長と市民の生活を支えてきた重要なライフラインである福岡市の水道事業は、市制が始まった明治22(1889)年に最初の計画調査が実施されましたが、実現を見ることなく、その後、都市の成長による必要性から、大正12(1923)年3月1日に創設されました。創設当初の給水人口は約3万5千人でしたが、人口の増加や都市の急成長、生活様式の変化に合わせて事業規模を拡大し、現在は、創設当初の46倍に当たる160万人の市民に水道水を提供しています。

他方で、福岡市は政令指定都市で唯一市域内に一級河川を有していないなど、水資源に恵まれていないことから、他都市では例のない19回にも及ぶ水源開発を重ね、近郊での水資源開発はもとより、市域外である筑後川からの導水や国内最大規模の海水淡水化施設の建設などにより水源の確保に努めてきました。今日の福岡市の発展があるのも、先達の弛まぬご尽力、そして、水源地域・流域の皆さまや国・県をはじめとする関係団体の皆さまなど、多くの関係者の方々の多大なるご支援とご協力によるものであり、改めて深く感謝申し上げます。

また、この間、福岡市では、異常少雨により、昭和53(1978)年と平成6(1994)年の2度、大渇水を経験しましたが、この経験を糧に、現在のSDGsの理念にもつながる「節水型都市づくり」を進め、世界トップの低い漏水率を達成するなど、限りある水資源の有効利用に積極的に取り組んできました。それらを通じて培った水道技術は国際的にも高い評価を受けており、世界の国々で水の有効利用が進むよう海外への技術協力にも積極的に取り組んでいます。

福岡市の水道事業は、令和5(2023)年3月に創設100周年を迎えますが、市民生活と都市の成長を支えるという水道事業が果たす重要な役割は、今後も変わることはありません。ポストコロナの新しい時代が始まり、Well-beingなど新しい価値観が生まれ、少子高齢化や災害の激甚化・頻発化がますます顕著となるなど、水道事業を取り巻く環境は大きく変化していますが、2度の渇水を「節水型都市づくり」に活かしたように、ピンチをチャンスに変える「したたかさ」と変化を恐れない「たくましさ」で、ICT技術の積極的な活用や脱炭素社会の実現に向けた様々な取組みにもチャレンジするなど、今後とも、市民生活の向上に寄与していけるよう、持続可能な水道事業の構築に向け、しっかりと取り組んでまいります。

今後とも、福岡市の水道事業へのより一層のご理解とご協力をお願いいたします。

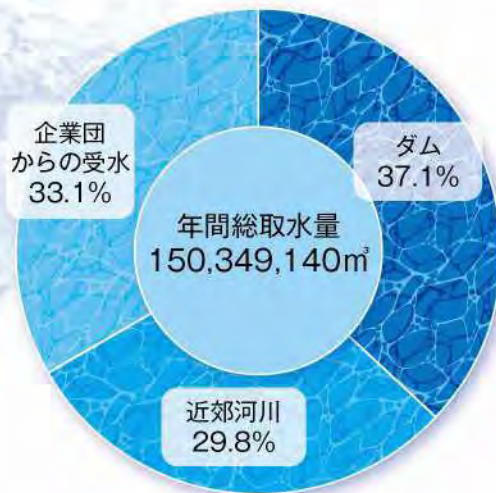


# 現在の水道事業

福岡市の水道事業は、曲漕ダム、平尾浄水場の完成により、大正12(1923)年に始まりました。その後、給水人口の増加や都市の発展に伴う水需要の増加に対応するため、水源地域・流域の皆さまのご理解とご協力を得ながら、これまで、市域外を流れる筑後川からの導水や天候に左右されない海水淡水化施設からの受水など、他都市では例のない19回にも及ぶ拡張事業を実施してきました。現在、9つのダムと5つの浄水場を有し(下図及び右ページ参照)、給水人口は160万人を超えるまでにその規模を拡大しています。

福岡市民が1日に使用する水量は、約42万立方メートル。その水源は、9つのダム、3つの近郊河川、福岡地区水道企業団からの受水の3つであり、その割合は概ね3分の1ずつとなっています(右のグラフ参照)。

ダムや河川から取水した水を浄水場で浄水処理をした後、企業団からの受水と一緒に総延長4,045キロの配水管を通して、家庭や事業所などに届けています。



水源別取水割合  
(平成28～令和2年度 5年間の平均値)





## 福岡市が水源とするダム



**曲淵ダム (室見川水系)**  
 供用開始: 大正12 (1923) 年  
 管理: 福岡市  
 有効貯水容量: 2,368,000m<sup>3</sup>



**南畑ダム (那珂川水系)**  
 供用開始: 昭和41 (1966) 年  
 管理: 福岡県  
 有効貯水容量: 5,560,000m<sup>3</sup>



**久原ダム (多々良川水系)**  
 供用開始: 昭和46 (1971) 年  
 管理: 福岡市  
 有効貯水容量: 1,460,000m<sup>3</sup>



**江川ダム (筑後川水系)**  
 供用開始: 昭和47 (1972) 年  
 管理: 独立行政法人水資源機構  
 有効貯水容量: 24,000,000m<sup>3</sup>



**脊振ダム (那珂川水系)**  
 供用開始: 昭和51 (1976) 年  
 管理: 福岡市  
 有効貯水容量: 4,401,000m<sup>3</sup>



**瑞梅寺ダム (瑞梅寺川水系)**  
 供用開始: 昭和52 (1977) 年  
 管理: 福岡県  
 有効貯水容量: 2,270,000m<sup>3</sup>



**長谷ダム (多々良川水系)**  
 供用開始: 平成5 (1993) 年  
 管理: 福岡市  
 有効貯水容量: 4,850,000m<sup>3</sup>



**猪野ダム (多々良川水系)**  
 供用開始: 平成13 (2001) 年  
 管理: 福岡県  
 有効貯水容量: 4,910,000m<sup>3</sup>



**五ヶ山ダム (那珂川水系)**  
 供用開始: 令和3 (2021) 年  
 管理: 福岡県  
 有効貯水容量: 39,700,000m<sup>3</sup>

福岡地区水道企業団の関連ダム・水源としては、○筑後川水系…江川ダム・寺内ダム・合所ダム・筑後大堰・大山ダム ○多々良川水系…鳴瀬ダム ○那珂川水系…五ヶ山ダム ○その他…海の中道奈多海水淡水化センター があります。

## 福岡市の浄水場



**高宮浄水場**  
 給水開始: 昭和35 (1960) 年  
 施設能力: 199,000m<sup>3</sup>/日



**乙金浄水場**  
 給水開始: 昭和47 (1972) 年  
 施設能力: 110,500m<sup>3</sup>/日



**夫婦石浄水場**  
 給水開始: 昭和51 (1976) 年  
 施設能力: 174,000m<sup>3</sup>/日



**瑞梅寺浄水場**  
 給水開始: 昭和52 (1977) 年  
 施設能力: 22,000m<sup>3</sup>/日  
 ※糸島市分7,000m<sup>3</sup>/日を含む



**多々良浄水場**  
 給水開始: 昭和63 (1988) 年  
 施設能力: 122,000m<sup>3</sup>/日  
 ※福岡地区水道企業団分22,000m<sup>3</sup>/日を含む



# 100年のあゆみ

## 上水道の創設と普及

### ～戦災からの復旧と水源開発～

#### ■福岡市水道事業の創設

明治以降、人口の増加と生活の近代化は、水需要の増加とともに井戸水の水質低下を招き、コレラや赤痢などの流行は、人々の生活に悪影響を及ぼしました。そのため、公衆衛生の向上と都市発展の観点から水道の創設が望まれ、市制が施行された明治22(1889)年、英国人技師バルトンによる上水道計画調査が行われました。財政上の理由などから直ぐには実現しませんでした。大正12(1923)年3月1日に、着工から7年もの歳月をかけて、曲淵ダムや平尾浄水場をはじめとする一連の施設が完成し、本市の水道事業がスタートしました。

大正12年、福岡市の総人口143,000人のうち、35,000人への給水から始まった水道事業ですが、その後、水道の便利さや衛生面で優れている点などが認められ、また市町村合併による都市化の進展などによって、需要が急速に増えていきました。

戦後も人口の急増に加え、経済成長に伴う生活様式の変容や産業の発展により、水需要は増加の一途をたどりました。他方で、政令指定都市で唯一、市域内に一級河川を有しないという地形的に水資源に恵まれない環境にあったため、ダムの建設に加え、下流の川の水をダムに揚水貯留するなど、様々な工夫を凝らし水資源開発を行いましたが、常に水不足に悩まされていました。



第1回拡張工事時の  
曲淵ダム  
〔昭和6(1931)年頃〕



#### 「上水道の創設と普及」 明治22年～昭和20年

- 明治22(1889)年 福岡区を福岡市と改め、市制を施行  
バルトンらによる福岡市上水道計画調査実施
- 大正2(1913)年 上水道創設事業認可  
水道事務所を設置
- 大正12(1923)年 曲淵ダム・平尾浄水場完成、通水開始
- 昭和20(1945)年 西畑ダム建設を戦局により中止し、塩原取水  
工事に切替  
福岡大空襲により水道管に甚大な被害を受ける



英国人技師  
ウィリアム・キンモンド・  
バルトン



水道の完成を伝える  
当時の新聞

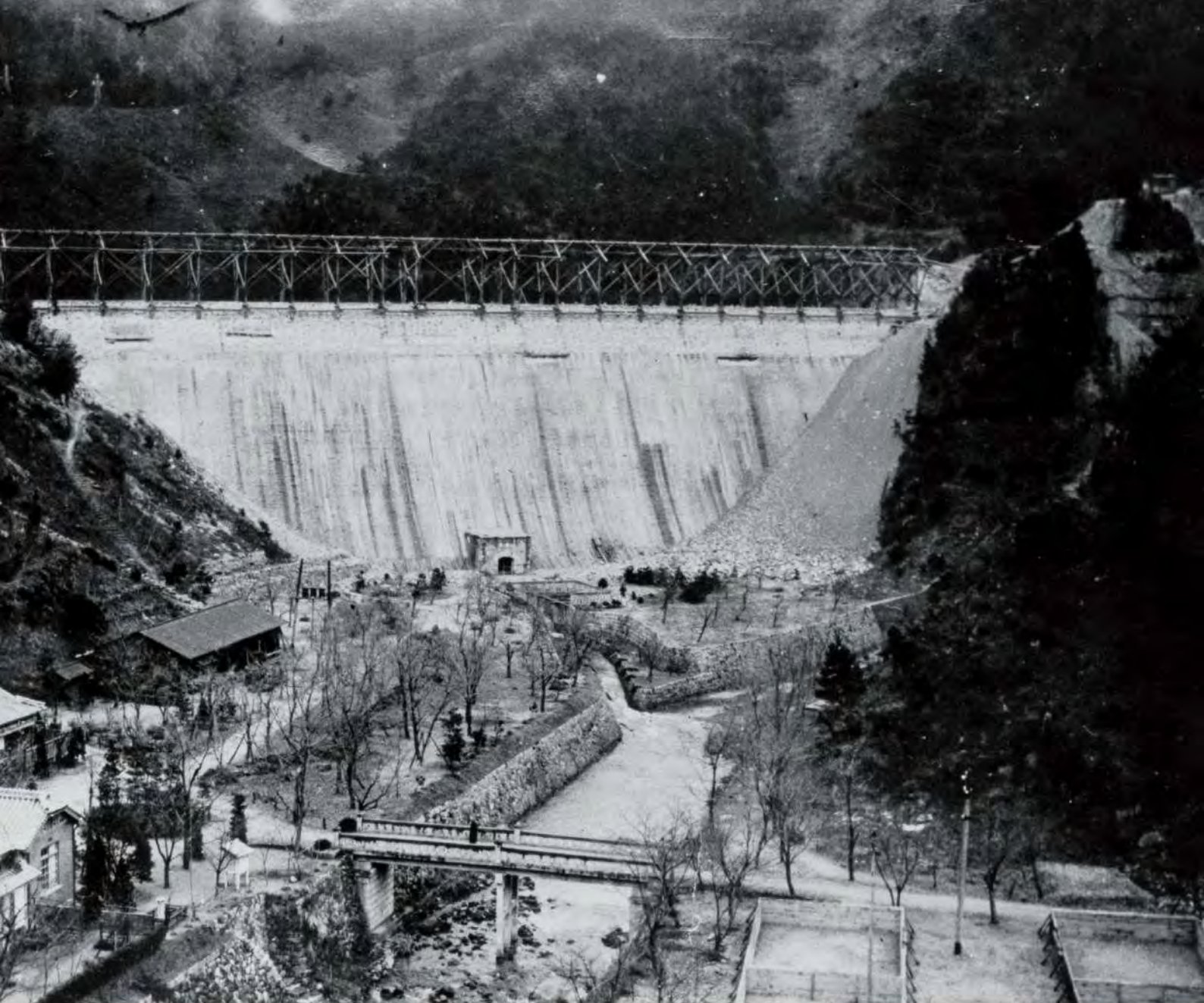


上水の槌(しおり)



福岡市水道創設着工当時の水道事務所員





## 「戦災からの復旧と水源開発」 昭和21年～昭和52年

昭和26(1951)年	塩原・室見浄水場完成	昭和47(1972)年	政令指定都市となり5区が誕生
昭和27(1952)年	水道事業が地方公営企業となり、局制を設ける		江川ダム完成
昭和31(1956)年	松崎浄水場完成		乙金浄水場完成
昭和35(1960)年	高宮浄水場完成	昭和48(1973)年	塩原浄水場廃止
昭和39(1964)年	筑後川水系が水資源開発水系に指定		福岡地区水道企業団設立
昭和41(1966)年	南畑ダム完成		水道用水供給事業認可
昭和46(1971)年	久原ダム完成	昭和51(1976)年	脊振ダム完成
		昭和52(1977)年	夫婦石浄水場完成 (平尾浄水場・室見浄水場廃止)



# 2度の大渇水 ～節水型都市づくりと 筑後川からの受水～

## ■福岡市を襲った2度の大渇水

昭和53(1978)年、前年からの少雨傾向に加え、3月から5月の春先にかけては、福岡管区气象台創設以来の異常少雨となり、未曾有の大渇水に見舞われました。貯水率が10%を割る危険な状態となり、国、福岡県、佐賀県、関係利水者の県域を越えたご理解とご協力により、寺内ダムからの緊急放流が実施されました。他にも、深井戸の掘削、人工降雨の実験などあらゆる対策を講じましたが、給水制限は287日間、1日最大19時間にも及びました。

さらに、平成6(1994)年には、昭和53年を上回る異常少雨のため再び大渇水となり、昭和53年を超える295日間にも及ぶ給水制限を実施しました。

## ■節水型都市づくり

昭和53年の大渇水を教訓として、翌年「福岡市節水型水利用等に関する措置要綱」を制定し、水資源開発と水の有効利用促進による節水型都市づくりを進めていきました。

昭和56(1981)年には、主要な水道管の流量や水圧を24時間体制で監視・集中制御する福岡市独自の「配水調整システム」を導入し、「水管理センター」の運用を開始しました。

また、節水シンボルマークを制定するなど、市民の節水意識の高揚を図り、市民の協力を得ながら「節水型都市づくり」を進めていきます。

## ■筑後川からの受水

九州最大の一級河川「筑後川」。この水を水道水として利用させていただくことは福岡市の念願でしたが、水源地域・流域の方々や関係団体などのご理解とご協力を得て、昭和47(1972)年に同水系の江川ダムから取水を開始し、さらに、昭和58(1983)年には、福岡導水からの通水が始まり、安定給水が大幅に向上しました。

バケツに給水を受ける市民  
(昭和53年)



## 「2度の大渇水 ～節水型都市づくりと筑後川からの受水～」

昭和53年～昭和57年

- 昭和53(1978)年 瑞梅寺ダム・瑞梅寺浄水場完成  
水道局渇水対策本部を設置  
異常渇水による給水制限開始
- 昭和54(1979)年 「福岡市節水型水利用等に関する措置要綱」施行  
287日間に及ぶ給水制限解除  
「節水の日」と「節水シンボルマーク」を制定
- 昭和56(1981)年 水管理センター運転開始



干上がった南畑ダム(昭和53年)



水管理センター(水道局本庁舎)



節水シンボルマーク(昭和54年制定)



福岡市節水推進本部(平成6年)





## 「2度の大渇水

## ～節水型都市づくりと筑後川からの受水～」

昭和58年～平成6年

昭和58(1983)年	筑後川からの受水開始 (福岡地区水道企業団関連)	平成2(1990)年	合所ダム完成 (福岡地区水道企業団関連)
昭和60(1985)年	曲淵ダム「近代水道百選」に選ばれる	平成3(1991)年	西区小呂島で海水淡水化装置による 給水開始
昭和62(1987)年	マレーシア国へ初めて技術職員を長期派遣 〔平成元(1989)年5月7日まで〕	平成5(1993)年	長谷ダム完成
昭和63(1988)年	多々良浄水場完成(松崎浄水場廃止)	平成6(1994)年	異常渇水による給水制限開始



# 水資源開発の完了と創設100周年

## ■水資源開発の完了

福岡市は、創設以来、水源地域・流域の皆さまのご理解とご協力を得ながら、19回にも及ぶ拡張事業により、水需要の増大に対処してきましたが、令和3（2021）年1月の五ヶ山ダム完成をもって、計画していた全ての水資源開発を完了しました。五ヶ山ダムは、昭和53（1978）年の大渇水を契機に、渇水対策容量を持つダムとして日本で最初に計画されました。福岡県内最大の貯水量を誇り、福岡市関連ダムの水道などに使える容量がこれまでの約1.7倍になり、水の安定供給に寄与するとともに、昭和53年や平成6（1994）年のような異常渇水時にも、市民生活等への影響を大幅に緩和できるようになりました。

## ■創設100周年

福岡市の水道事業は令和5（2023）年3月で創設100周年を迎えます。かつて先人たちが将来を見据えて近代水道を整備して100年。この限りある水資源を有効利用するため、水管理センターの配水調整システムの運用や漏水調査の実施、配水管の計画的な更新に取り組むとともに、節水への市民の協力を得ながら「節水型都市づくり」を進めてきました。福岡市は、新たな100年に向けて、安全で良質な水道水を安定的に供給し続ける持続可能な水道事業の構築を目指して歩み続けていきます。



五ヶ山ダム  
(平成30年3月 福岡県撮影)

## 年表

### 「水資源開発の完了と創設100周年」 平成7年～平成15年

- 平成7（1995）年 295日間に及ぶ給水制限解除  
7月5日に渇水対策本部を解散
- 平成9（1997）年 福岡市水道水源かん養事業基金設置
- 平成13（2001）年 猪野ダム完成
- 平成14（2002）年 鳴淵ダム完成  
(福岡地区水道企業団関連)
- 平成15（2003）年 「福岡市節水推進条例」施行



五ヶ山ダム竣工式



海の中道奈多海水淡水化センター(施設内部)



曲淵水源祭(令和4年度)



市有形文化財指定の碑  
(曲淵ダム・平尾浄水場跡)





## 年表

### 「水資源開発の完了と創設100周年」 平成16年～令和5年

- |             |  |             |   |
|-------------|--|-------------|---|
| 平成17(2005)年 | 多々良浄水場の高度浄水処理開始<br>海の中道奈多海水淡水化センターからの<br>受水開始(福岡地区水道企業団関連)         | 平成25(2013)年 | 水道局本庁舎に太陽光発電施設を導入<br>(発電出力3kW)<br>大山ダム完成<br>(福岡地区水道企業団関連) |
| 平成18(2006)年 | 水道GLP(水道水質検査優良試験所規範)<br>認定取得                                       | 平成26(2014)年 | 乙金浄水場に小水力発電施設を導入<br>(発電出力96kW)                            |
| 平成21(2009)年 | 曲淵ダム・平尾浄水場跡を福岡市有形<br>文化財(建築物)に指定<br>福岡市水源の森づくり共働事業を開始              | 平成30(2018)年 | 曲淵ダムに小水力発電施設を導入<br>(発電出力91kW)                             |
| 平成23(2011)年 | 瑞梅寺浄水場に小水力発電施設を導入<br>(発電出力35kW)<br>夫婦石浄水場に太陽光発電施設を導入<br>(発電出力60kW) | 令和3(2021)年  | 五ヶ山ダム完成   |
|             |  | 令和5(2023)年  | 水道創設100周年(3月1日)   |



# 水源地・流域への「感謝」

福岡市は、水源地・流域の皆さまのご理解とご協力のもと、水源の多くを市域外に頼っています。

じゃ口をひねると、水が出る。その向こうには、水で結ばれた水源地・流域があることに改めて思いをはせ、感謝の気持ちを持ちながら、これからも安全で良質な水道水を供給していきます。

## 筑後川からのめぐみ

福岡市は、水源地・流域の方々や関係団体などのご理解とご協力を得て、昭和47(1972)年に江川ダムから取水を開始し、昭和58(1983)年から、筑後大堰地点より取水された筑後川の水を、福岡地区水道企業団の牛頸浄水場を經由して、水道用水として受水しています。現在、福岡市で使用される水の約1/3を筑後川から導水しています。



筑後大堰

## ■水源地との交流事業

朝倉市や大分県日田市、佐賀県吉野ヶ里町などの水源地において、植樹や下草刈りなどの活動を通じた交流や、子どもたちに水の大切さを学んでもらう体験学習などを実施し、水源地・流域との連携・相互理解を図っています。



交流運動会

〔水をつなぐ流域交流in下戸河内(朝倉市)〕

参加者から

親子で一緒に楽しみながら植樹をするという貴重な体験ができました。環境や水の大切さについて考える良い機会になりました。



下草刈り

〔200海里の森づくり(日田市)〕

参加者から

都市部の生活に、水源の山々が深く関わっていること、また実際に自分で下草刈りの作業を行ってみて、改めて森林保全の大変さや大切さを知ることができました。



自然散策

〔弥生の都吉野ヶ里交流事業(吉野ヶ里町)〕

参加者から

福岡の水がどこをたどって家にきているのかがよくわかりました。「水を大切に」とただ言うより、今日の経験の方がより真剣に考え行動するきっかけになりました。

## ■市民等との共働事業

森林には、雨水を蓄えてきれいにするなどの働き(水源かん養機能)があり、このことから森林は「緑のダム」とも呼ばれています。

水源の森林を守るため、福岡市水道局では、水源地の皆さまと協力しながら、様々な取組みを行っています。

### 〔水源かん養林の整備支援〕

水源地自治体が行う、ダム周辺の水源地かん養林の整備を支援しています。

### 〔市民団体活動への助成〕

市民団体が、水源地で水源かん養林の保全や住民との交流等を行う場合、経費の一部を助成して活動を支援しています。



水源かん養機能を高めるための間伐作業



水源地域住民と市民団体による植樹



# 水源確保のための福岡市の様々な取り組み

政令指定都市で唯一、市域内に一級河川がないなど、水資源に恵まれていない福岡市は、様々な創意工夫により、水源確保を行ってきました。そして何より、2度の大渇水を経験した福岡市民の高い節水意識(=市民ダム)も、貴重な水源のひとつです。

## 〔海水淡水化施設からの受水〕

福岡地区水道企業団では、福岡都市圏の新たな水源として、平成12(2000)年に海水淡水化施設整備事業に着手し、総事業費約408億円を投じ、平成17(2005)年より、国内最大の日量最大50,000 $\text{m}^3$ (うち福岡市配分水量16,400 $\text{m}^3$ )の海水淡水化施設が稼動開始しました。



海の中道奈多海水淡水化センター(愛称:まみずピア)

## 〔揚水式ダム〕

福岡市の水がめである長谷ダム・久原ダムは、全国でも珍しい水道専用の揚水式ダムです。揚水式ダムは、河川の流水が豊富な時期に、下流の河川水をポンプアップし、2つのダムに貯水します。ダム建設適地の制約等により、流域面積(集水面積)が小さなダムでも、疑似的な流域面積を広げることにより、渇水時などに、より効率的な水利用が可能となります。



下流の河川からポンプアップした水の吹き出し口(写真は長谷ダム)

## 〔市民ダム〕

令和3年度市政アンケートでは、92.2%の市民の方が「節水に心がけている」と回答。全国値80.5%\*と比べても、市民の皆さまに高い節水意識が定着しています。

この高い節水意識のもと、家事用(一般家庭用)の一人1日当たり平均使用水量は約200 $\ell$ と大都市の中で最も少ない水準となっており、一人ひとりの節水意識は、「市民ダム」として、貴重な水資源となっています。

(\*内閣府H26「水循環に関する」世論調査)

節約都市ふくおか  
6月1日は「節水の日」

FUKUOKA  
SAVE WATER ACTION

100  
ANNIVERSARY

当たり前の「今」を守るために  
～水をたいせつに～

福岡市を襲った 2度の大渇水 (昭和19年、昭和44年)	本市域に およそ1/3を 筑後川から導水	福岡市 節水意識 92.2%	世界トップ 節水率 2.0%
------------------------------------	----------------------------	----------------------	----------------------

福岡市水道局 発行 092-921-1111

6月1日「節水の日」ポスター



# これからの100年に向けて

## 水道事業を取り巻く環境変化

— 施設の大量更新、気候変動、  
— 人口減少社会の進展

水道事業を取り巻く環境は大きく変化しており、水道施設の多くが更新期を迎え、また、近年、気候変動に伴う災害が激甚化・頻発化していることへの対応も必要です。さらに、今後の人口減少社会を見据えた事業運営が求められています。

## 施設の強靱化

災害時でも水道水を安定して提供できるよう、浄水・配水施設の耐震化を全て完了。今後とも配水管の耐震管への取替えや水道施設の耐水化を進めていきます。



配水池への耐震壁設置



耐震管への計画的な取替え

## 安全でおいしい水道水プロジェクト

水道水をそのまま飲む国は日本含め世界で約10か国。福岡市では、国の水質基準等よりも厳しい目標設定により、安全性に加え、おいしさの向上を図り、市民の満足度を高める取組みを進めています。



水道水質センターでの測定



こども水道教室(令和元年度)

## 水道ICTの推進

ICT技術を積極的に活用し、業務の生産性・効率性を高め、施設の長寿命化・ライフサイクルコストの最適化を図るとともに、迅速で利便性の高い市民サービスの実現を目指します。

ポンプ設備の状態監視システム

- ① IoTセンサでポンプの振動値を自動計測
- ② 無線通信によりデータを自動送信
- ③ リアルタイム遠隔監視、振動データの蓄積・分析

③ 遠隔監視・分析

IoTセンサ (ポンプ設備) 無線通信 (事務所等)

IoTセンサを活用したポンプ設備点検

## 世界トップの低い漏水率2.0%

福岡市の漏水率の低さは世界トップ。これまで福岡市が磨き上げてきた水道技術を活かして、世界の国々のSDGsの達成につながる水の有効利用に貢献していきます。今後も、IoTセンサを活用した漏水調査など、更なる水の有効利用に向けた新たな取組みに果敢に挑戦していきます。



海外での技術協力



# ～持続可能な水道事業の構築を目指して～

## 持続可能な 水道事業

### 脱炭素社会の実現に向けたチャレンジ

再生可能エネルギー由来電力の調達や、デマンドレスポンスの導入、電気自動車等の導入拡大や給水スポット設置など、多様なアプローチで、福岡市が目指す **2040 年度ゼロカーボンシティの実現**に向けてチャレンジしていきます。



浄水場に設置している  
太陽光発電パネル



可搬式給水スポットによる  
おいしい水道水体験

### 世界に広がる多様な価値観

— SDGs、Well-being など —

世界では、持続可能な社会の実現を目指すSDGsや、身体的・精神的・社会的に良好な状態であることを意味するWell-beingなど、地球環境保全や心豊かな暮らしなど多様な価値感を重視する時代になっており、これらの視点も取り入れながら、水道事業を運営していきます。



### 福岡市の水道を 未来へつなぐ ために

福岡市水道事業管理者  
坂本 秀和



福岡市の水道事業は、令和5（2023）年で創設100周年を迎えます。

水資源に恵まれていない福岡市では、長年にわたり、水源開発を進めてまいりましたが、令和3（2021）年の五ヶ山ダムの供用開始をもって、その取組みの完了を迎えることができました。この大きな節目を迎えるにあたり、水源地域・流域の皆さまや国・県をはじめとする関係団体の皆さまなど、多くの関係者の方々に改めて深く感謝申し上げます。

近年、水道事業を取り巻く環境は、施設の大量更新期を迎えるとともに、災害の激甚化・頻発化や人口減少社会の進展など、大きく変化しています。また、SDGsやWell-beingといった人や環境にフォーカスした、経済的な価値以外の要素が重要な判断基準となる時代となっています。

このような時代の変化の中、今後とも、施設の強靱化や水道ICTの推進、水の有効利用に取り組むとともに、市民満足度を高めていくための施策の推進など、ハードとソフトの両面から、たくましく、しなやかに取組みを進めていきたいと考えています。

福岡市の水道事業を次の世代に健全な形で確実に引き継いでいくため、そして、これからの100年も安全で良質な水道水を安定供給していけるよう、持続可能な水道事業の構築に向けて、全力でチャレンジしてまいります。

引き続き、関係者の皆さまのお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。



## 福岡市有形文化財 曲漕ダム・平尾浄水場跡



福岡市植物園に残る平尾浄水場跡（配水池の点検用通路入口）

福岡市の水道事業は、大正12（1923）年3月1日に、曲漕ダム・平尾浄水場の完成により、その歴史が始まりました。

創設から100年を迎えようとする現在も、曲漕ダムは福岡市の水源であり続けています。また、平尾浄水場は、昭和51（1976）年に夫婦石浄水場にその役割を引き継ぐまでの53年間、発展を続ける福岡の基幹施設として、水道水を供給し続けました。

どちらも、福岡市に残る近代化遺産として貴重であり、都市の発展に貢献した施設として重要であることから、平成21（2009）年に福岡市有形文化財に指定されました。

発行：令和4（2022）年8月

福岡市水道局総務課

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目28の15

電話：092-483-3139

FAX：092-482-1376

E-Mail：somu.WB@city.fukuoka.lg.jp

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/mizu/somu/>



世界水泳  
FUKUOKA  
2023年7月開幕



表紙写真：創設時と現在の曲漕ダム

福岡市水道局は持続可能な開発目標（SDGs）の達成に取り組んでいます。